

## 2023 年度第 2 回おおぶ文化交流の杜運営協議会

日 時 : 2023 年 12 月 18 日 (月) 14:00~16:00

場 所 : おおぶ文化交流の杜 文化サポーター室

出席者: 委員 5 名 (2 名欠席) / 大府市 (文化振興課田中課長・永露係長) 事務局 (JTB コミュニケーションデザイン: 以下 JCD 総合館長松井・文化交流部門マネージャー森 図書館流通センター: 以下 TRC 図書館館長村上・図書館部門マネージャー小倉)

発 言 者

議 事 録

事 務 局 本日はお忙しい中お集まり頂き、ありがとうございます。

2023 年度第 2 回おおぶ文化交流の杜、運営協議会を始めさせていただきます。

司 会 アローブも開館 10 年目になりました。順調に運営していると聞いております。

本日は文化部門・図書館部門の上半期報告と、次期 5 年間の第 3 期おおぶ文化交流の杜中期事業計画について議論して頂きたいと思っております。

忌憚のないご意見をお願いします。本協議会の規約に則り、委員過半数の出席の為会議成立となります。

～2023 年度上半期文化交流部門より説明～

司 会 ご意見ご質問などお願いしたい。

A 委 員 “子育て応援”や“仕事家事終わり”でこれまで参加しづらかった方々にも参加しやすいようにターゲットを設定し、募集した結果、9 割集まったというのはよい企画だったと思う。一方で「HOOK カルテットウクレレコンサート」は、これまで開催されたウクレレコンサートと比べてチケット販売が振るわなかったようだが、理由は把握しているか？

J C D 毎年 2 月に実施しているウクレレコンサートには希望する人が舞台上で一緒に演奏する「100 人ウクレレ」のコーナーがあり好評だが、今回はそのコーナーが無かったので、参加意欲が下がったことが原因と考えている。

B 委 員 「アフリカン Mali パーカッションコンサート」はチケットが完売となっているが、どのように告知したのか。またアンケート結果をみると大府市外からの参加者が多いようだが、問題はないか。

J C D この企画は育み隊の企画運営で開催した。告知については「広報おおぶ」の他、チラシを配布したり、SNS でも発信した。演者さんもチラシを配布されたが、名古屋市内に活動拠点があるので、名古屋市を中心とした大府市外の参加者が多くなったと推測している。告知のスケジュールを考えると、まずは広報おおぶで情報を得た大府市内の方がチケットを購入され、その後チラシで知った市外の方が空いていた席を購入されたようだ。そのような経緯から市外の参加者が多くても特に問題はないと考える。

大 府 市 アンケート結果を確認したが、市としても特に問題はない

C 委 員 子育て中の方が参加しやすいように配慮された「子育て応援！フラワー講座」は良い企画だ。自分も以前に公民館でエクササイズを指導したことがあるが、0 歳から年少までの子どもと一緒に参加できる企画として開催し、とても好評だった。

J C D 小さなお子さんと一緒に空間で行う文化講座は興味深い。今後の参考にしたい。

～2023 年度上半期図書館部門より説明～

司 会 ご意見ご質問などお願いしたい。

C 委員 図書館子どもまつりは盛況だったが、中学生のボランティアサポーターが大変よくやってくれた。

図書館の利用者数の減少は5月に底を打ち、その後徐々に増加しているようなので今後期待している。

9月に開催された「大島真寿美・加古淑トークイベント」は盛況で好評だった。アンケート結果を見ると大府市内の方の参加が多いので、よくお声掛けいただいた成果が出ている。また、受付などの対応が良いというアンケート結果はこの事業だけではないので、事業に携わるスタッフはよく頑張っていると思う。

～第3期おおぶ文化交流の杜中期事業計画「あしたの杜」文化交流部門の説明～

～第3期おおぶ文化交流の杜中期事業計画「あしたの杜」図書館部門の説明～

司 会 文化交流部門、図書館部門にそれぞれこれまでの5年間の振り返り、これからの5年間の方向性を説明していただいた。ご質問ご意見お願いします。

D 委員 文化交流部門の「③地域文化を支える市民の拡大」で挙げられた課題として、サポーターズクラブの“自立的運営というゴールのイメージがつかめない”というものがある。解決のためにはまず、どんな組織にしたいのか提示し、もう一度それにふさわしい人材を確保して立て直ししたほうが良いのではないか。

J C D イベントの企画から運営まで完結できるようなサポーターズクラブが理想ではあるが、時間に余裕がある方が少ないこともあり、現状では難しいと考えている。第3期の期末までにその理想に少しでも近づけるよう努力したい。

D 委員 現状では自立的運営よりボランティアでイベントをお手伝いするようなスタイルが合っていると思う。

司 会 図書館のサポーター活動に学ぶ点もあると思うがアドバイスなどはないか。

E 委員 図書館サポーターズクラブは、それぞれのクラブでやりたいことをやっているの、テーマがはっきりしていてわかりやすい。文化交流の方は、例えば演劇やクラシックは関心が無いが、バンドなら応援したいというように好みがはっきりしている人が多いので、難しいのではないか。

B 委員 イベントを運営する場合、赤字が出た時のことを考えると不安だから、自発的な企画運営というのは難しいと思う。またこれまでの経験でも、「フロントスタッフのお手伝いはするが、チケットは売らない」という意見が出る事が多く、自主的な運営というのはすごく難しい課題だと思う。

C 委員 図書館サポーターズクラブは、全員がプレイヤーだからうまく回っているが、育み隊はプレイヤーではないので難しい。例えば舞台を一度演じてもらい、そのチケットを自分達で売するような経験を積むと意識が変わっていくのではないか。

司 会 育み隊の成り立ちから知っているが、いろいろな人が集まっているので、メンバー間に活

動に対する温度差があるのは仕方のないことだと思う。

D 委員 一つのアイデアとして、図書館のように文化団体をサポーターグループとして登録するという形もできるのではないか。自分の団体で自分のやりたい企画を持ち込んでやったほうがうまくいく場合もある。

司 会 他に質問や意見はないか。

C 委員 電子図書館はどんな属性の利用者が多いか。

T R C 属性のデータは無いが、閲覧数は多くない。告知が不十分なことも一因だと推測している。図書館のホームページから利用していただくため、ホームページへのアクセスを増やすことも重要である。現在、電子書籍は 2600 コンテンツしかなく、新設の図書館では 5 万コンテンツほどもある図書館もある。10 年前の開館時には電子書籍がある図書館は少なかったが、今では電子図書館のある図書館はかなり増えている。電子図書館の利用者を増やすためにはコンテンツを充実させることも必要である。

E 委員 電子書籍を増やすことによって、来館者を減らす一因となる可能性がある。また、少ない予算で電子書籍を増やす場合には、ターゲットを絞って、そのターゲットに合った電子書籍を増やすよう考えると良い。

T R C 東浦町立図書館は全体の資料費は多くはないが、電子書籍に対する資料費は大きく、電子図書館にかなり力を入れている。東浦町立図書館と 1 カ月間スタッフの交換留学を行い、当館スタッフに電子図書館のノウハウを勉強して来てほしいと指示をし、電子書籍に掛ける予算の違い、電子書籍の選書基準、運営方法などの情報収集をおこなった。また、資料費は限られているので雑誌スポンサー制度などを導入し対応をしていきたいと考えている。

小学校の校長先生から、電子図書館の資料が使えるかと尋ねられることがあり、まずは、朝読に利用していただける電子書籍を揃えていきたいと考えている。

E 委員 児童コーナーは充実しているので、できれば子どもさんには来館してもらって、本に触れてほしい。電子図書館は、なかなか来館してもらえない 30 代、40 代の男性やお父さんお母さんたちをターゲットにして、電子図書館をきっかけに実際の来館に繋げるような方向が望ましいと思う。

30 代、40 代とか新たな電子図書館の利用者となる人に、その場ですぐ答えられるくらいの簡易なアンケートを取ってみるのも面白いのでは。どんな本が電子書籍化されていたら読みたいかを質問し、その結果に合わせて選書していくと良いと思う。

T R C 「どんな本があったら読みたいか」「電子図書館があることを知っていますか」など聞いてみたいと思う。また、同時に電子書籍はスマートフォンでも簡単に読めるということも合わせてアピールしていきたいと思う。

E 委員 ここはアローブの中に図書館があり、いろいろなイベントもやっているなので、やはり来館者数を増やす方向でやってほしい。ただ、今まであまり来ていなかったターゲットのところを選んで電子書籍を増やすのは良いかもしれない。

D 委員 市内の大学の研究との連携や大府市にゆかりのある企業の写真やパンフレットを電子書籍化して、調査研究や論文作成の支援ができることをアピールできるのではないか。

- 司 会 それが実現すると全国から利用者が集まる可能性もある。
- 大 府 市 電子図書館の利用は、利用者が限定されていなかったか。
- T R C 大府市民に限定されている。
- 大 府 市 利用が限定されている点と、本当に面白いコンテンツが電子書籍化されているかという点が問題だ。以前からこのことは議論されていて、コロナ禍の時にも問題となっていたが、結論は出ていない。先ほどのご意見であったように、ここにしかないような、例えば大府の歴史や民俗を電子図書で読めるようにしておくと、もしかしたら青森のどこかに同じ習慣があるところが見つかるかもしれない。考古学や民俗学を学ぶ人達からそういう希望も聞いているので、そういうことが進められるようになれば、検討する価値はある。
- 司 会 電子書籍自体がまだ進化中であることも難しい点だ。大府市民しか電子書籍を見られないのは権利の問題か。
- T R C そういうことだが、市外の方も来館していただければ、図書館内でのみタブレットを使って見ていただくことはできる。
- 司 会 他に意見や質問はないか。
- T R C 本日、F委員は欠席だが、事前に会議資料を送ったところ、「中期事業計画の定量評価の項目で資料紛失率を使用しているが適切か」とご意見があった。現在約 41 万冊の蔵書に対して 1 年間の紛失数は 5 冊前後と少なく、紛失率は 0.1%未満が続いている。「紛失率よりも、リクエストサービスや希望図書への対応状況を評価したほうがいいのではないか」という意見だ。
- 図書館としては、市民の税金で揃えた資料を管理するのは大事な業務なので、紛失率を使用することは重要だと考えている。今後のために、リクエストいただいた資料の充足率や相互貸借の状況などをデータとして表せる指標にはどういったものがあるかを調べているが、何かご意見があればお聞かせいただきたい。
- 大 府 市 定量化できる資料として紛失率は記載しておくべきだと考えているが、0.1%を目標とすることが妥当かどうかは再検討しても良い。新たに加える指標にはどのようなものが良いのかいろいろ難しい点もある。
- 現在、利用者からリクエストされた資料は、相互貸借を活用するなどしてほぼ 100%ご要望にお応えすることができている。リクエストされたからといって、その時だけ人気あるものを大量に購入することはできない。資料について基準を設けて利用者に提供していくのが公共図書館の役割なので、特定の指標だけに囚われないよう本来の役割に則って運営することも重要だ。
- T R C 承知した。
- 司 会 実際の紛失率と目標値とでは桁が違いすぎて、あまり有効でないようには思う。
- T R C 指標として資料紛失率は残し、目標数値やその他の指標は今後検討する。
- 大 府 市 本日は内容が充実した会議ができた。これだけ委員の皆さまに真剣に議論いただいた。この内容については市役所の内部でも共有したい。
- J C D 2024 年度の年間事業計画も資料に記載している。後日でよいので確認いただきたい。
- 司 会 以上で本日の協議事項は全て終了した。

事務局 皆様本日はありがとうございました。皆様方のご意見をもとに第3期中期事業計画と2024年の運営計画を策定したい。

来年度第一回の運営協議会、開催予定は2024年5月23日（木）の予定。